

2025

6 June

Rotary International District2740

GOVERNOR'S
MONTHLY LETTER

2024-25年度
国際ロータリー第2740地区
ガバナー 石坂 和彦

月信 Vol. 12



野岳湖



2024-25 年度 国際ロータリーのテーマ



Index

Governor's message	1
寄稿 ロータリーに何故哲学が必要か？	2
ガバナー補佐退任挨拶	4
地区委員長退任挨拶	9
PETS 報告	18
第 5 G IM 報告	19
第 7 ・ 8 G IM 報告	20
国際青少年交換留学生報告	21
ローターアクト地区年次大会報告	23
フォレストアドベンチャー・おおむら長崎	23
2025 年 3 月会員数・出席報告	24
新会員紹介・物故者・寄付者紹介	25
大村の価値再発見伝	裏表紙

Governor's message



2024-25 年度

第 2740 地区 ガバナー

石坂 和彦

会員皆様と地区をつなぐガバナー月信が、いよいよ6月号となりました。当月は親睦活動月間です。

この1年、「一円融合」を合言葉にかかげ、様々な違いを超えて、お互いに認め合い、理解しあい、協力し合うことを求めてまいりました。私ども国際ロータリー第2740地区が心をつなぐ活動に取り組んでまいりました。すべてが会員皆様お一人お一人のご理解とご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。

勿論やるべきことが山積みですが、この一年の貴重な体験が、これからのロータリーに生かされていくことを確信いたしております。

さて、「親睦」という意味は、互いに親しみ合うこと、仲よくすることだけではありません。決して狎（な）れ合うということでもありません。それは“一円融合”という基盤があつての親睦でなければと考えます。このことはロータリーの理念と合致し世界へ広がっていくのだと思います。世界平和への確実な一歩だと考えます。深い意味合いのある言葉、そ

れが「親睦」です。

次年度の地区基本方針は、“未来へ紡ごうロータリーの価値”と定めさせていただきました。

論語に「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」というくだりがあります。これは「立派な人は他人と和することができるが、安易に徒党を組むようなことはしない。ところがつまらないものは、群れを好むが、真の調和を気付くことができない。」という意味だそうです。一つになるということも、考え方とその行動で大いに違いがあります。親睦とは、冒頭に述べさせていただいたように、違いを乗り越え、お互いを尊敬しあい、仲よくし楽しむこと。自らを律し、これからも一歩ずつ親睦の歩みを進めてまいりたいと思います。そのことを教えてくれる、毎日のロータリーです。

“ロータリーって素晴らしい！！！”

ロータリーになぜ哲学が必要か？

千葉 憲哉 PDG（諫早北 RC）

ロータリー情報とファクト・チェック

貴方はロータリー情報をどのくらい知っていますか？ My Rotary だけでなく、SNS を含め、あらゆるメディアによる情報過多に我々はさらされています。しかし、その情報の真偽の見分けが困難となっています。多くの真偽不明の情報がもたらすことが原因で種々な出来事、事件が増えています。世の中のあらゆる疑問に正しく返答するために、私たちにもたらされる情報が「真実かどうか？」のファクト・チェックの重要性が叫ばれています。

我々、ロータリー会員自身がロータリーの基本的情報さえわからない混乱が起こっています。中学生に「ロータリーって何？」と聞かれてもロータリーそのものが刻々と変化しており、そのロータリー情報が毎日次々に押し寄せて来るために、即座に返事ができない人がほとんどです。だから国際ロータリーがロータリーのファクトを知らしめるために RLI を推進しているのもうなずけます。

ファクト・チェックとイマヌエル・カント

ファクト・チェックを 200 年以上前に真実に考えた人がいます。哲学者イマヌエル・カント（1724-1804）です。「純粋理性批判」の著者として知られています。カントは哲学者です。哲学とは「真理とは何か？を研究する根源的学問」です。要するにファクトを研究する学問です。何をもって「真理」と言うか？ カントは「真実、善、正義」の根源たる誰も疑わないはずの「理性」にさえ欺瞞的本症が含まれる事を鋭く指摘しました。

すなわち、人は物事を判断する際に、「先入観、偏見、見かけ」に惑わされるそのために物事の真実が見えなくなり、間違った判断をする。すなわち、これを仮象（～のように見えて、実は～でない。）とカントは言いました。実例をあげましょう。太陽は東から上り、西へ沈む、だから地球を中心に太陽が回ると考えましたが、

皆さんの目で見るとそうとしか見えません真実はそうではありません。ガリレオは反対に、地球が太陽の周りをまわっているのが真実であることを望遠鏡による観察を通してコペルニクスの地動説を証明しました。

そして仮象（先入観、偏見、見かけ）を見破る手段として、カントは 2 つの相反する命題を掲げ、もし、この二つの命題が同時に成り立てば、矛盾はない正しい命題であると判断し、もし、成り立たなければ矛盾である命題という事になり、この命題は虚妄や欺瞞であると判断できるとしました。この二律背反の考え方は、19、20 世紀の学問の在り方としての基本として大きな影響を与えました。

人類の論理的思考法：3 つのステージ

ところで、現代の論理的思考法は哲学の発祥地ギリシャではじまりました。その論理的思考法は 3 つのステージで成り立っています。**基本土台の第 1 ステージ**は哲学、宗教、その上段の**第 2 ステージ**は学問（経済学、数学、科学など）、さらに最上段の**第 3 ステージ**は日常生活の活動です。だから世の中の思考法のすべての土台は哲学、宗教です。我々は最上段の日常生活の活動だけの思考に明け暮れ、つい、3 段階のステージの考え方を忘れてしまいます。

「哲学と宗教」がこの世で生きる上で土台としてなぜ一番大切なのでしょう？カントはこれに次のように答えています。哲学とは「真理とは何か？を研究する学問」すなわち、真理は理性の根源である。宗教の本質は理性宗教であり、道徳を満たして初めて宗教とよべる。すべての宗教は人間が集団生活する時、大切なことは道徳を守ることであり、この世のすべての宗教は民衆に道徳を説くという共通目的がある。道徳的完全性を具現した人を神（仏）とあがめている。神の命令の従うとは道徳に従うという事なのです。

しかし、現代では宗教に「道徳を実践する」

という本来の目的が忘れられ、逆に儀式を行う義務が宗教の目的と化しており、目的と義務の逆転現象が起きている。奇跡や恩恵をもたらすことを宗教に求めるのは間違いであるはずだ。宗教（道徳）を信仰（実践）する結果、良い結果が起こるのは当然のことであり、奇跡でも恩恵でもなんでもない。カントは「見える教会」の仮象に惑わされてはいけない。と言い、「見えざる教会」（人間の心の中の教会）の必要性を説いたのです。

現代宗教の最大の問題は宗教の儀式を目的化したことです。その結果として、人々は宗教の大切さが、すなわち道徳の大切さが忘れられ、宗教離れが全世界的に起こっています。その結果、道徳が軽視され、社会が乱れ、戦争、犯罪、誹謗中傷、嘘にまみえる社会となっているのです。世の中をただすには道徳（理性・善・正義）を実践する以外にはありません。今こそ理性宗教（道徳宗教）が必要とされています。

「4つのテスト」について

そこでロータリーに目を移しましょう。オールド・ロータリアンは、「ロータリーが変わった、昔のロータリーの方がよかった」とよく言われます。何が不満なのでしょう？

オールド・ロータリアンは「**ロータリーを語れ!**」とよく言います。そこに答えがあると思います。ロータリークラブと他の奉仕団体との一番の違いは「**ロータリーには哲学がある。**」事とよく言われています。そうです、オールド・ロータリアンは、哲学、すなわち道徳が薄れて、ロータリークラブが「仮象にまみれた単なる烏合の衆の団体」になることに危機感を感じているのです。1905年ロータリーが始まって以来、ロータリーの歴史はポール・ハリス、コリンズ、シェルドン、ガイガンデッカー、近くはハーバート・テラー、これらの方々が100年以上にわたって、ロータリーにおける道徳・倫理を説いてきたのです。そして、今のオールド・ロータリアンは先輩からこれら道徳・倫理をあくほど説かれてきたのです。

ロータリーのどこに哲学があるの？と皆さんはお思いかと思います。ポール・ハリス、コリンズ、シェルドン、ガイガンデッカーとまでは

言わなくても、ハーバート・テラーを語ればよいのです。身近なものは「4つのテスト」です。すなわち、まずは「**4つのテスト**」を語れば、**ロータリー哲学を語ることになる手始め**なのです。「4つのテスト」をじっくりとよく読んでみて下さい。上記、人類の論理的思考法の3つのステージの内、「言行はこれに照らしてから」の言行（言動と行為）は**ステージ3のこと**。そして「照らす」のは「4つのテスト」すなわち、**道徳律（ステージ1）に照らし合わせて下さい**。と言う意味です。勿論、ビジネスならば経済学、いわゆる**ステージ2**も十分に加味されています。

ファクト・チェックは「4つのテスト」（哲学）に立派に生きています。

「4つのテスト」

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

まとめ

ロータリー哲学について、カントの考え方にもとづいてロータリアンとしての在り方を解説してみました。「4つのテスト」さえ実現出来たら、ロータリアンの行動に**ステージ1：philosophy（哲学、宗教）、ステージ2：paradigm（特定の時代や医学、文学、物理、社会学など学問分野において支配的な規範となる「物の見方や捉え方」のこと）、ステージ3：practice（日常生活における実践活動）**のすべてが実現できていることになります。

人間生活の土台となるのは、最も大切な**ステージ1（哲学、宗教）**であるという事です。ロータリアンならば、哲学を、いや道徳を論じて下さい。きっと世の中はよくなるはずです。

（了）

参考文献 カント入門（石川文康著）筑摩書房

ガバナー補佐退任挨拶



第1グループガバナー補佐 江本 志寿雄（牛津 RC）

2024～2025年度、ガバナー補佐として活動してまいりました。早いものであったという間の1年でした。

私は、個人で饅頭店をしております。仕事の関係上、ガバナー補佐に就任した当初は務まるかどうか不安がありましたが、この1年、無事に任務を遂行することができましたのも、ひとえに会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

この役を引き受けて私なりに顧みますと、他クラブの会員の皆様方との親睦がより一層深まったと感じており、この活動が人生の1ページに刻まれましたことを大変嬉しく思っております。

石坂ガバナー、森地区幹事には、並々ならぬご配慮をいただきましたこと、略儀ながら書中にて御礼申し上げます。

最後になりましたが、ロータリークラブのさらなるご発展と会員の皆様のご多幸をお祈りして、退任の挨拶に代えさせていただきます。

1年間、誠にありがとうございました。



第2グループガバナー補佐 本村 一（佐賀西 RC）

第2グループ（佐賀北 RC・佐賀南 RC・神埼 RC・佐賀空港 RC・佐賀西 RC）

ガバナー補佐を拝命してから間もなく一年となります。

7月～10月にかけてクラブ協議会、公式訪問を重ねるうちに、各クラブの会長・幹事さんとも、コミュニケーションがとれるようになり、ようやくそのクラブの雰囲気にも馴染んでいけるようになりました。そのような中で、各クラブがそれぞれに確固たる独自性をもって活動をなされていることにはつくづく感心した次第です。同じクラブというのは一つも無く、クラブの成り立ち、会員構成、地域性、など特徴を活かした、クラブ運営、クラブの雰囲気造りがなされていると言う事を学ばせて頂きました。

就任期間中に2クラブの周年記念事業に参加させて頂きました。佐賀南 RC の40周年・佐賀北 RC の55周年とどちらも心温まる手作り感満載でした。この記念事業で会員同士の連帯感が深まったということでもあります。ロータリークラブの親睦と融和の実践を垣間見るとなりました。

9月に実施いたしました第2グループ IM については、準備期間が短い中、沢山のロータリアンの皆様方にご協力を頂き無事に終了することができました。

誠に有難う御座いました。

一年間を通し振り返って見ますと第2グループに何一つお役に立てず、皆さんと出会い親睦を深め、ただ私一人が楽しんだ一年だったと反省しております。

ガバナー補佐の責務を無事に終えるにあたりご支援頂きました第2グループの各クラブ会長、幹事様はじめ会員の皆様、そして心強いバックアップを最後までくださったホームクラブの真弓会長、手塚幹事、他会員各位、すべての皆様方の温かいご支援 ご協力に心から感謝とお礼申し上げますと共に石坂ガバナー、森地区幹事、運営スタッフの皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念し、退任のご挨拶と致します。

一年間ありがとうございました。



第3グループガバナー補佐 村島 秀典（嬉野 RC）

振り返れば早い一年でした。2023年12月9日よりガバナー補佐会議から始まり計6回、その他各セミナー・協議会など石坂ガバナー・森地区幹事のロータリーに対する熱い思いのもとご指導を受け、第3グループの皆様、ロータリーの価値の再発見 一円融合を伝えるべく、2024年7月より就任し7月9日の鹿島ロータリークラブのクラブ協議会・16日のガバナー公式訪問から始まり、有田クラブ・大町クラブ・嬉野クラブ・武雄クラブ・太良ロータリークラブの6クラブそれぞれクラブ協議会・ガバナー公式訪問とお世話になりました。それぞれ各クラブの会員の皆様に温かく迎えて頂き心より感謝申し上げます。

第3グループの親睦を深める為に6クラブを3グループにして2クラブでローテーションしての合同例会・懇親会を開催し友情を深めています。また第3グループの親睦ゴルフ大会や各クラブでの合同ゴルフコンペなど企画されました。2025年2月にインターシティミーティングをホストクラブを嬉野クラブ、コ・ホストクラブ鹿島・武雄クラブさんのご協力のもと開催し石坂ガバナー・森地区幹事を迎え、また基調講演には、講師としてチベット出身のバイマーヤンジンさんを迎え、国によって教育、暮らしの違いや、母国に学校建設の援助をしている話、歌手でもあるヤンジンさんの素晴らしい歌声など、懇親会でも皆様楽しく過ごして頂き充実したひと時だったと思います。就任当初は緊張の連続でしたが、任期半ばになる頃には各クラブの雰囲気も分かり始め会員の皆様とも打ち解け楽しい日々になりました。しかし第3グループの皆様に石坂ガバナー・森地区幹事の思いを十分届ける事が出来なく申し訳なく反省しています。石坂ガバナー・森地区幹事・花島パストガバナー・第3グループの会長・幹事・会員の皆様、ご支援ご協力深く感謝申し上げます。有難うございました。



第4グループガバナー補佐 濱口 吉治（唐津中央 RC）

2024-25年度、国際ロータリー第2740地区、第4グループのガバナー補佐を仰せつかり、大変貴重な経験をさせて頂きました。その中で最も大きな出来事は、唐津ロータリークラブ在籍の、辻幸徳ガバナーエレクトの突然のご逝去。アメリカでのガバナー研修を終え帰国された直後の事でした。心の動揺もありましたが、石坂ガバナーのご支援、ご協力のもと、3/15日（土）集大成としてのIMを無事に開催することができました。

またそこでは、中島次期地区幹事から第4グループに対して、次年度地区大会成功に向けての協力要請がありました。皆様のご支援、ご協力により、地区大会を成功させなければならないと思っています。多くのロータリーアンの方の思いは同じだにご推察しますが、ロータリーアンはプラス志向の考え方をする人が多く、大いに学ぶべきものがありました。

そのロータリー活動を、日々の生活に生かせないだろうかと思った時に、やはりロータリーとは出会いによって人を知り、親睦を深め、ロータリー活動によって地元への社会貢献を行い、公共イメージの向上を図ることにある、と改めて感じました。

最後に、石坂ガバナーの「暖かい励ましの言葉」、「魔法の言葉」により、1年間無事にガバナー補佐の職務を終え、おいしい水を汲むことが出来ました。更に、第4グループの6クラブ、そして会員の皆様の暖かいおもてなしと、ご支援、ご協力に大変感謝申し上げます。

有難うございました。



第5グループガバナー補佐 西田 耕也（北松浦 RC）

2024～2025年度の第5グループ（佐世保・佐世保西・平戸・松浦・北松浦）のガバナー補佐を石坂和彦ガバナーの下でさせていただきました。

昨年の今頃は、自分にガバナー補佐が務まるかどうか不安な気持ちでいっぱいでしたが、石坂ガバナー、森地区幹事にアドバイスをいただきながら、この1年ガバナー補佐をさせていただきました。

その中で地区の事業に参加し、素晴らしい方々にご縁をいただき、貴重な体験をさせていただきました。

特に4月18日の第5グループIM開催に際しては、お忙しい中ご臨席を賜りました石坂ガバナーはじめ、第5グループ（佐世保・佐世保西・平戸・松浦・北松浦）の会員の皆さまのご協力で盛況に開催できましたことに感謝致しております。

ガバナー補佐のお役を通して、多少は自己成長できたのではないかと思います。

この1年、大変ご協力をいただき、ありがとうございました。



第6グループガバナー補佐 吉田 大（佐世保東南 RC）

このたび、国際ロータリー第2740地区第6グループのガバナー補佐としての一年間の任期を無事に終えることができました。これもひとえに、各クラブの皆様のご支援とご協力のおかげと、心より感謝申し上げます。

在任中は、クラブ協議会やガバナー公式訪問を通じて、第6グループの各クラブを訪問させていただき、クラブの特色ある活動や熱意あふれる取り組みに触れることができ、大変貴重な経験となりました。また、インターシティミーティングでは多くの会員の皆様にご参加いただき、クラブ間の連携と友情を深める機会となったことを嬉しく思っております。

石坂ガバナーをはじめ、森地区幹事、大村ロータリークラブの皆様には、常に温かいご指導とご支援をいただきましたこと、深く御礼申し上げます。さらに、各クラブの会長・幹事の皆様には、様々な場面でご尽力いただき、円滑な活動運営を支えていただきました。

この一年間を通して、多くの学びと出会いに恵まれ、ロータリーの精神と絆の大切さをあらためて実感いたしました。皆様と共に歩んだ日々心より感謝し、今後とも一会員としてロータリー活動に励んでまいります。

ありがとうございました。



第7グループガバナー補佐 麻生 康友（大村北 RC）

本年度、石坂和彦ガバナーのもと、第7グループ ガバナー補佐として多くの皆様に支えて頂きながら、任期を終える事が出来ました事に心より厚く御礼申し上げます。

至らない点多々あったとは思いますが、皆様のご協力により、石坂ガバナーの方針や想いを、グループ内の皆様にお届けし、各クラブがロータリーを語り合い、価値を再発見して頂けたと実感しております。しかし本当に大切なのは引き続きクラブの伝統と特色を活かし、様々なロータリー運動を展開して行く中で、個々の成長と会員同士の友情を築く事だと思います。

本年度は第7グループ5クラブの会長様・幹事様にはお手数をお掛けしましたが、年間活動計画を振り返って頂くために半期報告をお願いし、達成した事業や目標、または未達成計画をご報告頂きました。

ロータリーに限らず、この検証こそがクラブの活性化と長期ビジョンの実現のため、更には自己研鑽に必要な事だと今でも確信しております。

また、3月22日に開催させて頂きました第7・8グループ合同のI・Mでは「ロータリーの価値は実践にあり！」と掲げたテーマを無事に成功裏に終える事が出来たのも、大村北RCをはじめ大村RC・大村東RCの多大なご支援とご協力の賜物だと深謝しております。

ご講演を頂きました参議院議員 佐藤正久様をはじめ、ご臨席頂きました大村市長 園田裕史様、パストガバナーの皆様、そしてご参加頂いた多くのロータリアンの皆様には厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

10名の同期ガバナー補佐の皆様とは和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しく活動をさせて頂きましたが、特に本多善彦ガバナー補佐には多くの事を学ばせて頂き、充実した1年間となりました。本当にありがとうございました。

結びになりますが、石坂和彦ガバナー・森 広康地区幹事様をはじめ、地区役員様ならびに第7グループのロータリアンに心より感謝を申し上げますとともに、全てのロータリアンのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

「石坂和彦ガバナーのMagic」に心を奪われました(^^)／

追伸：辻 幸徳ガバナーエレクトのご冥福を心よりお祈り申し上げます。



第8グループガバナー補佐 本多 善彦（雲仙 諫早南 RC）

第8グループ（諫早地区5クラブ）ガバナー補佐を拝命いたしましてからはや、一年となります。当初よりガバナー補佐の役目は、クラブ運営のサポートであり、地区との橋渡し役と考え活動してまいりました。第1回ガバナー補佐会が2023年10月7日に始まり、第7回ガバナー補佐会議2024年6月14日まであり、石坂ガバナーの元しっかり勉強させていただき、7月には補佐としてスタートできました。本年度は、石坂ガバナーとクラブ会員との語る会を実行され、クラブ会員とガバナーの距離が縮まったと感じました。また、個人的にはロータリー財団・米山記念奨学・職業奉仕・社会奉仕4つの委員会を担当させていただき、大変勉強させて頂きました。

あまりにも張り切り過ぎたため、パストガバナーにクレームを付け、一時的に険悪な雰囲気になりましたが、ロータリーを愛するがための発言だったと分かり、後日職業奉仕の本まで頂きました。私の若気の至り（71歳、笑）でしたがこれがロータリーの良さだと思います。

7・8グループのIMでは、佐藤正久（ヒゲの隊長）氏「わが国を取り巻く安全保障環境」講演いただき防衛について日本人として、危機感を持って取り組まなければと実感させられました。

2部では「ロータリーの価値ってなあに？」テーマについて、ベテラン会員2名入会10年未満会員2名にパネラーになっていただきファシリテーションを行ないました。現在のロータリーの在り方、考え方の参考になったと思います。

最後に、今年度の第10グループガバナー補佐の中島健太郎君が、ガバナーノミニーに選出され大変嬉しく誇らしく思います。

次年度「石坂ガバナー・中島エレクト」を皆さん応援いたしましょう。



第9グループガバナー補佐 長谷川 宏（長崎琴海 RC）

2740地区のロータリアンの皆様、1年間お世話になりました。特に、第9グループの皆様には石坂和彦ガバナーの”一円融合“の精神が行き渡るように配慮したつもりですがどうだったでしょうか。単年度の事業を基本としていたRIは今年度から3年周期の計画を推奨するようになりました。皆さんのクラブでは実行できましたか。また、相手の立場に立ってわかり合うことの大切さも重要なことだと思います。以前から9、10グループでは合同でIMを開催してきました。これからもこのスタイルは続いていくと思います。初めての心として、合同の会長幹事会を五島で開催できたことは離島の困難さをみんなで分かち合うことができた一つの事実だと思います。

石坂和彦ガバナーのスローガンは、今失われつつある「寛容」という日本人の良さをロータリアンから取り戻す第1歩だと思います。

RIでもDEIを広げていこうとしている中、本国ではこれを否定し実行することを中断させこれを行わないと宣言するように求める事が公然と行われています。ポール・ハリスがなくそうした世界に逆戻りしないか心配です。

私個人としては反省ばかりです。体調不良で後半も1、2月に各クラブを訪問しようと思っていましたが叶いませんでした。時期の平山寿則ガバナー補佐との引継ぎのクラブ訪問は行えると思っています。それで私の役割は終了です。また、所属クラブも解散することになりロータリアンとしてのキャリアも残念ながら終了してしまいます。

30数年にわたるロータリーとしての経験は私自身を成長させてくれたと思います。今、退会という文字が頭の片隅に浮かんでいるロータリアンもいるかもしれませんがクラブの誰かに話しかけてみてください。話題は何でもいいんです。嬉しいこと、悲しいこと、不満、うっぶん。ロータリーはそういうことを語り合う場です。



第10グループガバナー補佐 中島 健太郎（長崎東 RC）

本年度、第10グループのガバナー補佐を務めさせていただきました、長崎東ロータリークラブの中島健太郎です。長崎北 RC, 長崎南 RC, 長崎みなと RC, 長崎中央 RC, 長崎出島 RC, 長崎東 RC の皆様におかれましては、新任のご挨拶、クラブ協議会、ガバナー公式訪問、会員増強卓話、周年記念、引継ぎのご挨拶など度々例会に参加させていただき、ありがとうございました。石坂ガバナーのお考えをお伝えする役割ではありますが、各クラブ其々に工夫を凝らした組織運営は参考になることが多く、深い学びを得ることが出来ました。また、本年度よりガバナー補佐の役割として、地区委員会にオブザーバーとして参加することとなり、会員増強委員会と公共イメージ委員会を担当させていただきました。委員長、委員の皆様が多くのプライベートの時間を費やし熱心に活動される姿に触れ、これまで何気なく参加していた地区セミナーの裏側には多くの方々のご苦労と努力があることを知りました。グループ内の大きな行事として、本年度のインターシティミーティングは長崎中央 RC の皆様にホストクラブを務めていただきました。物価高騰の折、厳しい予算の中でもアイデアを凝らして素晴らしいIMを開催して頂いたこと、感謝しております。次年度ホストクラブの長崎北東 RC の皆様にも参考になるものであると思います。また、長崎みなと RC が提唱クラブとなり第10グループ初の衛星クラブ『長崎ダウントゥアース衛星ロータリークラブ』が誕生したことは、2740地区全体でも大きな喜びと可能性を感じさせるものとなりました。若いクラブが順調に育ち、既存のクラブに刺激を与えるような活動を期待しています。最後に、ガバナー補佐として出会った大村 RC の皆様、次年度運営の唐津 RC の皆様、先輩ガバナー補佐、同期の皆様、地区委員会の皆様、各クラブロータリアンの皆様、多くの方々との出会い友情の輪は私の財産となりました。心より御礼申し上げますとともに、次年度ガバナーエレクトとして身が引き締まる思いが致します。ありがとうございました。

地区委員長退任挨拶



RLI 推進委員会 委員長 帯屋 徹 (大村 RC)

このたび、RLI 推進委員会の委員長としての2年間の任を終えるにあたり、ここに退任のご挨拶を申し上げます。

この2年間、多くのロータリアンの皆さまに支えていただきながら、リーダーシップ研修の場づくりに努めてまいりました。RLIの目的である「考えるリーダーの育成」を掲げ、少しでも多くの方にとって学びと成長の機会を届けるべく、委員会一丸となって活動してまいりました。

中でも、RLIのパートI・II・IIIの3日間研修を終了された皆さまと共に、前RLI日本支部ファシリテーター委員長の中村靖治先生を講師にお迎えし、本年度初めて開催致しました卒後研修とファシリテーター育成兼ねて、対面によるリアル研修を実現できたことは、大変意義深い出来事であり、今後のRLI活動にとっても重要な礎となったと感じております。

時代の変化とともに、オンラインとリアルを融合した柔軟な運営が求められる中、皆さまのご理解とご協力により、各種研修の開催を無事に成し遂げることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

今後、後任の委員長をはじめとする新体制のもと、RLIがさらに発展し、地区の未来を担うリーダーを輩出し続けていくことを心より願っております。

結びに、この2年間の活動を支えてくださった全ての皆さまに、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



クラブ管理運営委員会委員長 野田 初憲 (神埼 RC)

2024-2025年度地区クラブ管理運営委員長退任 及び、2021-2025年度まで4年間の委員長の任を終え、今年度退任にあたりましてご挨拶申し上げます。

在任中、皆様方にはクラブ管理運営委員会の活動にご理解とご協力、ご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。コロナ過・アフターコロナ・withコロナと不安定な状況下で積極的な活動が制限される期間もありましたが、一歩ずつ今後へ繋げることができる活動が出来たのではないかと自分なりに評価しております。

クラブ管理運営委員会の役割は、クラブの効果的な運営のために各クラブと連携を図りながら活動することでロータリーライフの充実・向上の一翼を担う重要な部門と認識し、地区方針に基づきクラブ管理運営委員会として重点目標を掲げ、効果的で円滑なロータリー活動・運営や革新性と柔軟性を持ったクラブ運営に努めることとし、これまで取り組みを行ってまいりました。この4年を振り返り、活動方針に沿った役割を十分に果たすことが出来たのだろうかと反省点もありますが、多くの方に支えていただきながら委員長の大役を全うすることが出来ました。

今後はロータリークラブの一員として諸活動に参加し、皆様との交流が図れればと思っております。

最後に、4年間お世話になりました御礼と、素晴らしい仲間との出会い、素晴らしい経験の機会を与えて頂きましたことを心から感謝申し上げ、退任の挨拶に代えさせていただきます。

会員増強委員会 委員長 久保 泰正（諫早西 RC）



2024-25 年度の会員増強委員長としての任期が間もなく終了いたします。この一年、地区の皆様には多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

本年度は、クラブの活性化と会員増強を大きな目標に掲げ、各クラブの実情に寄り添う形で施策を展開してまいりました。中でも特筆すべき成果として、9月21日に「クラブ活性化セミナー」を開催できたことは、大変意義深いものでした。

このセミナーは、会員増強委員会のみならず、クラブ管理委員会、公共イメージ委員会、ロータリー財団委員会との連携により実現したもので、クラブの未来を考える貴重な機会となりました。約 200 名もの参加をいただき、各クラブの会長・会長エレクト、戦略計画、会員増強、公共イメージ、財団部門の委員長が一堂に会しました。

第 2840 地区・田中久夫パストガバナー、第 2720 地区・永田壮一パストガバナーのお二方による講演は、「クラブ活性化のために」「行動計画の実践と課題」というテーマのもと、具体的かつ実践的な示唆に富んだ内容でした。セッション後のファシリテーションや Q&A も活発に行われ、参加者の関心の高さが感じられました。

アンケートでも内容の充実度やタイムスケジュール、会場への満足度が高く、参加者からは「モチベーションが上がった」「責務の重要性を再認識できた」との声も多く寄せられました。これらの成果は、地区内のクラブの力を結集し、共に前進することの意義を再認識させるものでした。

任期を終えるにあたり、これまでのご支援に心より御礼申し上げます。今後も皆様の活動のさらなる飛躍をお祈りしつつ、引き続きロータリーの理念のもと、地域社会への貢献に取り組んでまいります。ありがとうございました。

公共イメージ委員会委員長 公門 新治（佐世保北 RC）



「ロータリーの価値の再発見！！－ロータリーを語り合おう－“一円融合”」石坂ガバナーの掲げられた地区運営方針に則り、1 年間活動させていただきました。ロータリーの優先事項である「より大きなインパクトをもたらす」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的なかわりを促す」を念頭に、今年度は、地区大会「ポリオデーイベント」での募金活動、ポリオ関連映画の視聴、10 月 22 日「END POLIO Cycling Challenge 2024」のゴールセレモニー、2 月 23 日の「ロータリー 120 周年」での新聞広告の掲載といった広報活動に力を入れました。また、ロータリアンへの情報共有として、公式 WEB サイトでの奉仕活動の事例紹介、各セミナーで使用された資料の公開、ガバナー月信の更新等も行ってきました。WEB サイトの見直しも DX 小委員会との連携で次年度への課題として引き継いでいきたいと思っています。

ロータリーでは、個々の会員がブランドの推進者となります。「世界を変える行動人」であるということを忘れずに一人ひとりが活動しましょう。

2740 地区の皆様には地区活動ご協力、ご理解頂きありがとうございました。一年間の感謝とお礼を申し上げます。



職業奉仕委員会委員長 矢野 京子（諫早北RC）

一年が終わり年度末のご挨拶をさせていただきます。

日頃より地区職業奉仕委員会活動に多大なるご協力を頂き誠にありがとうございます。

地区の仕事は国際ロータリーやガバナーの意向を各クラブへ反映していくのが任務と捉えております。

昨年度に引き続き「地区職業奉仕WEB勉強会」を2か月毎に開催致しました。職業奉仕を理解して頂き実践していく事により職業奉仕と言うロータリーの神髄を全うしていけるよう地区委員全員が一体となり、この事業に取り組んで参りました。お陰様で参加者の皆さんには職業奉仕を理解して頂けたと確信しております。職業奉仕を理解してもご自身が実践される事が一番大切だという事もお伝えして来ました。参加者の皆様はこれから職業奉仕の実践をされる事と確信しています。このような方々が一人でも多く増えていく事を今後も望んでおります。

また、WEBで使用しましたパストガバナーによる職業奉仕卓話を地区ホームページへ掲載致しております。こちらの活用も各クラブで卓話としてビデオを流して頂きました、職業奉仕はいろいろな方面から勉強しながら理解していくものと考えております。これからも掲載を続けていきますので各クラブで使用して頂きたいと思っております。今年度は地区の行事を減らして取り組んでおりましたが来期もう一年継続して委員長を拝命しておりますので次年度は各クラブ職業奉仕委員長様にもご協力頂くような内容を盛り込んでいく予定でおります。

職業奉仕はロータリーにとって大切な委員会と位置付けています。これからも地区の役割を果てせるような委員会活動を行っていく所存です。今後も引き続き宜しくお願い申し上げます。



社会奉仕委員会委員長 高比良 耕一（佐世保東南RC）

令和7年6月末日をもちまして地区委員長任期満了となります。

委員会としての一年目は地区委員会メンバーと共に多くの勉強をさせて頂き感謝致しております。

昨年11月24日の地区社会奉仕委員会セミナーでは沢山のロータリアンのリーダーにお集まり頂き、一緒にこのセミナーを考え「ロータリーとして地域社会の課題をいかに解決に導き奉仕へ繋げるか」をポイントに置き各クラブ様の新しい奉仕事業にして貰いたい思いで開催しました。

このセミナーの参加者の皆様からとても高い評価を頂き、また多くの方が興味を持ち積極的に参加している様子が見られパネルディスカッション後のアンケートにも、主旨に対する前向きな意見が多く、これからの地域社会にいかにロータリー会員が関わって行けるか、社会の課題の投げかけに出来たら事を本当にセミナーを開催して良かったと感じました。

誠に素晴らしいロータリアン皆さまと委員会メンバーと共に出来ました事を嬉しく振り返ります。

末筆ながら文章にてご報告とさせていただきます。

国際ロータリー第2740地区ロータリアン皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



ロータリーファミリー委員会委員長 徳川 清隆（唐津RC）

「ロータリーファミリー委員会」の委員長を退任するにあたりご挨拶を申し上げます。今年度2年目となる委員会ですが、ようやく「ロータリーファミリー」の意味と概念が地区内でも理解が深まってきたように感じます。

委員会活動でも、ロータリーの青少年奉仕に知識と理解が深い委員の方々のご支援により運営することが出来ました。

8月に開催された「危機管理セミナー・ロータリーファミリーの集い」では、2部構成にて企画をしました。

第1部「危機管理セミナー ～青少年奉仕活動～」の演題にて RijyemPlatform 副理事長 片山 勉 様を講師でお招きし、ロータリーの危機管理について多くの事例を参考しながら深く学ばせていただきました。

これは、ロータリーの危機管理の対象はクラブが実施される例会・行事・奉仕活動すべてに対象となる事です。しかし、この点をしっかり理解すれば楽しいロータリー活動につながっていく事を改めて認識させてもらいました。

第2部の、「ロータリーファミリーの集いでは」青少年奉仕部門各委員会、米山記念奨学部門委員会との連携によりそれぞれの活動内容を発表していただき、改めて活動内容を知り当年度の活動への取組が、横連携による事業開催が模索できる内容になったと思います。

実践活動が主体となる青少年奉仕活動ですが、委員会が注力する点は、プロジェクトに参加された方々、特に若い方々（青少年）へロータリーの奉仕理念を理解して頂き共感が持てるような機会を作り、ロータリアンとの交流と親睦ができ、私達ロータリーが望む次世代のリーダー育成に繋げていくことを委員会の目的としています。特にRYLA（ロータリー青少年指導者育成プログラム）事業は、その目的に合致したと考えます。参加された若い方々（青少年）たちが、リーダーシップスキルの向上を共に学び合い、参加者同士の友情を育み、ロータリアンとの関りにロータリーの奉仕理念に共感して頂いたのは良かったと思います。

今後、ロータリアンと若い方々（青少年）がロータリーファミリーの一員となり、お互いに尊重し理解し合いながら、ロータリーの奉仕理念に繋いでいける様切に望みます。

最後になりますが、ロータリーの青少年奉仕の理念のもと地区の更なる発展に微力ながら寄与できるよう活動してきました。これまでの皆様のご協力とご支援に感謝し、退任挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



ローターアクト委員会委員長 安永 恵子（佐賀RC）

2023-2024年度から引き続き、2024-2025年度の地区ローターアクト委員長を務めさせていただきました。

ローターアクトクラブの入会資格は18歳以上の青年男女とされており、年齢の上限は厳密にはありませんが、20代後半となると卒業することが多く、新陳代謝が早いです。このようにローターアクトクラブはメンバーの入れ替わりが頻繁に行われるので、活動の継続性が課題となっています。そこで、2024-2025年度は、地区代表が「縁活」という言葉をテーマに設定し、ローターアクト同士の縁を大事にすること、地区内外の交流を円滑に行うことを目標に掲げ、息の長い活動を目指しました。

また、2024-2025年度は、初の試みとして地区代表を共同代表制にしました。これは、地区代表がなかなか決まらなかったことから苦肉の策として取ったものですが、結果として、多忙な地区代表が互いに補うことができ、功を奏したと考えております。地区代表は地区内の6つのローターアクトクラブを訪問することや、他地区との交流、ロータリーの諸活動に出席するなど、地区の顔として様々な活動をする必要があります。このような地区代表の負担を軽減しながらローターアクトの活動を活性化するためには、ロータリアンも知恵を絞り、改革していく必要があると認識を新たにしました。

特筆すべきこととして、ローターアクトクラブには石坂ガバナーより格別のご配慮をいただき、様々な形でご支援を頂戴しました。石坂ガバナーのご厚情によりローターアクトが励まされ、活動が活性化しましたことをここに申し添えます。

至らぬ委員長でご迷惑を多々お掛けしたと存じますが、お支え下さいました皆様には心より御礼申し上げます。退任後も一委員として、微力ながらローターアクト活動を支援させていただく所存です。引き続きよろしくお願い申し上げます。



インタラクティブ委員会委員長 川島 雄輔（唐津RC）

昨年に引き続き地区インタラクティブ委員会の委員長を務めさせていただき、年度の終わりにあたりましてご挨拶申し上げます。

今年度の地区インタラクティブ委員会の活動は、振り返ると様々な課題に直面した1年間でした。

主要な行事の一つである前期指導者研修については、準備の開始が遅れてしまったせいもあり、参加インタラクティブクラブの日程調整が合わず、やむなく中止とせざるを得なくなっていました。

また、年度途中でインタラクティブクラブの一つが活動を終結することとなりました。インタラクティブクラブとしてボランティア活動をするものの魅力を十分に伝えられなかった面もあると思いますし、活動継続に繋がる研修やサポートができていなかった面もあると思います。大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ただ、1年目よりも年間を通した全体の流れが分かっていた分、一つ一つの行事に余裕をもって向き合えたところはあったかと思っています。特に後期指導者研修では新たな試みとして実施してみたレクリエーション（謎解きゲーム）はインタラクティブクラブ間の交流の一助になったとの手応えを感じました。

そして、次年度、地区インタラクティブ委員会委員長として3年目を迎えます。

自クラブの大先輩でもあった辻ガバナーエレクトが急逝されたことは大変ショックでしたが、石坂ガバナーがその志を引き継いでの続投を決意し引き受けて下さったことは本当にありがたい限りです。

石坂ガバナーのもと、クラブの幹事職と兼任で忙しい1年にはなりそうですが、1年目と2年目で培ったことと反省を生かし、インタラクティブのみなさんがより活発に奉仕活動を実践していただけるよう、有意義な地区行事を開催していきたいと思っています。

1年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

そして次年度も何卒よろしくお願いいたします。



R Y L A委員会委員長 太田 陽子（大村RC）

まず初めに、本年度もR Y L A事業へのご協力に心より感謝申し上げます。多くの方々のご理解と支えがあったからこそ、私たち委員会の目標を達成することができたと感謝しております。昨年より始まった地区委員会主導でのR Y L A事業でしたが、年当初の目標であった、昨年の受講者（ライラリアン）の半数が、本年度も事業に参加してくれ、またロータリーファミリーとして横の繋がりが、より強固なものになったことで、国際青少年交換留学生の生徒や、ローターアクトの皆様も本事業に参加してくださいました。これにより第2740地区内で、年代が違う青少年同士の交流ができ、異なる文化や異なる視点を持ち寄る良い機会となり、このR Y L Aというプログラムがより豊かなものになったのと感じましたし、当地区の青少年奉仕が一步前進したのではないかと考えております。

本年度のR Y L A事業は、戦後80年という節目の年に、改めて「平和」について考えてもらいたいとの事から「シン・ライラ〜円融合であるためのリーダーシップ〜」をテーマに開催をしました。一言に「平和」といっても、まずは足元から見直すことが必要と考えました。自分たちが住む地域が平和でなかったら世界平和を考える余裕は生まれないと思います。この事業を通じて、受講生たちは戦争の真実を知り、平和の重要性を実感することで、より良い未来を築くためのリーダーとして成長することを目指してくれると信じています。

最後に、多くのアドバイスを頂き、時間を共有して下さった千葉パストガバナーと麻生ガバナー補佐、そしていつも支え協力してくれる委員会メンバーの皆様、またR Y L A事業へ参加のご協力を頂きました各クラブのロータリアンの皆様に感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。



国際青少年交換委員会委員長 徳永 隆信（有田 RC）

本年度、青少年交換委員長として2年目を迎え、本プログラムの意義を改めて見つめ直し、持続可能な運営のあり方を模索しながら、改革に取り組んだ一年でございました。

これまで応募者の減少やプログラムへの理解不足、引受クラブの少なさが課題でしたが、その中で希望を見出したのは、実際に関わった方々が心から価値を実感し、自然とその意義を周囲へ発信してくださる姿でした。これこそが、ロータリー活動への感謝のかたちであり、持続可能な活動の原動力であると実感しております。

特に課題として感じたのは、留学後の学生や保護者がロータリーとの関係を持続することが難しいという点です。ROTEXとして後輩支援に関わることが原則ではありますが、受験や送迎の負担を理由に協力が得にくく、語学学習の延長と捉えられている傾向も見られました。

一昨年、本部よりプログラム休止の可能性が示されたことを受け、地区セミナーを開催し、学生および保護者に協力を呼びかけました。その結果、「このプログラムは当然に存在するものではなく、多くのロータリアンの支えによって成り立っている」という認識が育ち、「参加するから協力する」意識への転換が生まれました。

その思いを胸に旅立った留学生たちは、現在アメリカ、カナダ、オーストラリアで生活しています。月信レポートの内容にも変化があり、従来の自己評価中心の報告から、親善大使としての自覚を持ち、後輩の参考となるような内容へと進化していることを感じています。

この活動は、自己満足的な奉仕や一方的な支援ではなく、ボランティア精神への理解と、協働によってこそ継続できると確信しています。次年度が委員長としての最後の任期となりますが、「参加してよかった」「ロータリーを多くの人に知ってほしい」と思ってくれる仲間を増やし、ペイフォワード（恩送り）の連鎖を広げていきたいと願っております。

最後に、私の改革にご理解とご協力を賜った委員会の皆様に、心より感謝申し上げます。2740地区の皆様からお預かりした大切な分担金を常に意識し、今後も地域社会とロータリーの発展に寄与してまいります。一年間、本当にありがとうございました。



ロータリー財団委員会委員長 岡村 康司（長崎南 RC）

2019年7月～2025年6月までの6年間ロータリー財団委員会を預かりました。

財団委員会は3つの委員会と2つの小委員会を擁し総勢20名の大所帯でその活動範囲は多岐に亘っています。主な活動はまず①地区補助金/グローバル補助金の申請/報告のチェック②財団寄付の推進とロータリークラブカードの加入促進③ポリオ根絶活動への支援④国際奉仕支援活動などです。

就任後の大きな事業は11月の「財団月間」で「財団セミナー」を開催することでした。コロナ直前のギリギリのタイミングでコロナ前最後の大きなセミナーでした。年が明け2020年になると日に日にコロナの脅威が増してきて活動が全くできない期間が続きしました。大人数が集まるセミナーや委員会内の打合せは中止されましたがZoom等の活用で財団奨学生の募集選考面接はコロナが明けるまで毎年度行うことができました。それは奨学事業を行う上で我々財団メンバーの励みにもなりました。2年続いたコロナ禍での委員会活動をバックアップしていただいた当時の花島光喜ガバナー、塚崎 寛ガバナーにはこの紙面にて感謝申し上げます。ありがとうございました。

委員長4年目の2022～2023年度は上村春甫ガバナー（佐賀 RC）、5年目2023～2024年度は緒方信行ガバナー（佐世保北 RC）千葉憲哉副ガバナーの下、3年計画で念願だった北タイの少数民族・アカ族子供教育支援活動（識字率向上）に地区補助金を活用し事業を行いました。私自身2回訪タイし、現地の教育現場や子供たちの生活環境を具に視察しました。

子供たちとふれあう中で教育がどれほど大事なことであるか、また我々が日本で享受している日常の暮らし、子供たちが受けている義務教育がどれだけありがたいことかを身をもって知らされました。そこは貧しい村ですがいじめも不登校もありません。学校に行きたくても子供たちの家は極貧で行けないのです。このような支援が必要な場所はたくさんありますが、できる支援は教育にとどまりません。我々ロータリアンに何ができるか、もういちど原点に立ち返り考えたいと思います。

さて、私の6年にわたった財団活動も漸く終わりを迎えます。

私は「ロータリアンは奉仕しなければただの会員」だと思っています。なので、財団を離れても一ロータリアンとして奉仕活動は続けていきたいと思っています。

2740地区の皆様には長きにわたりご支援ご協力をいただきありがとうございました。

6名のパストガバナーには私の財団ならぬ「独断委員会」をあたたかく見守っていただき感謝しております。これからも財団委員会をよろしく願いいたします。



補助金委員会委員長 西川 義文（大村 RC）

今年度、補助金委員では、次の3つの小委員会が配置され、この3小委員会で委員会に与えられた活動を行いました。財団奨学・学友小委員会委員長に喜多清基君（島原 RC）を中心に、ロータリー財団の7つの重点項目に沿った奉仕活動のためにグローバル補助金を使つての奨学生選考を行い 2024-25 年度にはポルトガルのリスボン大学院へ高尾由香さん、イギリスのロンドン大学医学部修士課程へ清水真澄さんが合格され、出発されました。また、9 月に出発した岸川代世さんがイギリスのサセックス大学院の紛争解決コースへ留学しました。世界的な物価高と日本の円安の影響で為替相場が極端な円安で、海外での学びや生活に、大きく不利に働いています。2024-25 年度よりグローバル補助金を 30,000 ドルから 40,000 ドルとし、財政支援の強化を図っています。

② グローバル補助金・平和フェロー小委員会

小委員長に古川尋美君（佐賀南 RC）を中心に各クラブからのグローバル補助金の申請や承認された補助金事業の報告書送付という終結までを T R F の指導に基づき対応しています。同様に地区補助金を使つての海外地区クラブとの国際奉仕への支援も行っています。また、国際紛争の解決等の専門人として担う平和フェローの募集やフェローとの交流に努めるようしています。

2023 年度よりのフィリピンのマカティ地区のロータリークラブを共同者として、佐世保北クラブがグローバル補助金が承認され、近郊農村地区の農業経営近代化と所得向上をソーラー発電システムにて、農水道改善にチャレンジされます。

③ 地区補助金小委員会

小委員長に松尾延大君（長崎南 RC）を中心に各クラブが行う地区補助金を使つての奉仕事業を T R F へ申請し、完了を報告するまでの間の支援や多様多様なクラブからの対応に精一杯協働にて、各クラブが行う地区補助金を利用した奉仕活動を地区委員会として協力して行いました。

今年度地区内 22 クラブへ地区補助金として 29,816 ドル、4,323,320 円を配分させて戴きました。

皆様からの貴重な年次寄付や特定寄付を 2740 地区で有効に使えるような活動が出来て幸いでした。

ロータリー財団への寄付を地元地域を含む世界中で困っている人々のために有効に使われてますことを補助金委員会として幸いに感じています。

2740 地区補助金委員会活動に感謝申し上げ、退任の挨拶といたします。



資金推進委員会委員長 藤田 昭比古（島原 RC）

このたび、2024 年度をもって資金推進委員長の職を退任いたします。

2024 ～ 2025 年度は、クラブ会員の皆さまの温かいご理解とご協力のもと、諸事業の推進に取り組むことができましたことを、心より感謝申し上げます。特に、寄付・協賛活動におきましては、多くの方々のご厚意とご尽力に支えられ、ありがとうございました。

資金推進活動を通じて、ロータリーの理念と地域社会への奉仕の在り方を改めて学ばせていただきました。この経験を今後のロータリー活動に生かし、引き続きクラブの発展に微力ながら貢献してまいります。

最後になりますが、後任の委員長をはじめとする委員会の皆さまのご活躍と、クラブのますますのご繁栄をお祈り申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。



ポリオプラス委員会委員長 吉岡 義治（佐賀南 RC）

この 1 年間、ポリオプラス委員会委員長として、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。

ガバナー事務局よりポールハリス由来の月桂樹の苗による基金へのご寄付、地区大会では、ポリオに罹患した主人公をテーマにした映画『ブレスしあわせの呼吸』の上映、そして鑑賞された皆さんからのご寄付、翌日は、ロータリーファミリー・米山記念奨学生の方々の協力による寄付活動等、ここまでこられたのは、第 2740 地区の皆さんのご協力があったことです。感謝いたします。

今年になって、新年早々個人としてではありますが、最後のポリオ野生株常在国のひとつであるパキスタンでの経口ポリオワクチン接種活動に参加し、最前線でのロータリーの活動を目の当たりにしてきました。

治安悪化地域で、去年だけで接種活動中に 20 名以上のポリオワーカーが殺害されています。

それでもワーカーの人達は「ワクチンが普及すればポリオは根絶できる」この言葉を合言葉に日夜命がけで活動しています。

「世界でよいことをしよう」というモットーで、皆さん今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。



資金管理委員会委員長 香月 章彦（佐世保中央 RC）

2024-2025 年度石坂ガバナーの下、資金管理委員会地区委員長を務めさせて頂きました。

前年度も同じお役目を頂いておりましたが、やや難解な補助金の仕組みを理解するのに苦労はしました。しかし、諸先輩方からのご指導を頂きながら、なんとかすすめております。

今年度も、円安の影響を踏まえた補助金支給額となり、このことで事業計画書及び事業報告の決算書作成に各クラブ担当者に大変ご苦労をおかけ致しました。

地区補助金実施クラブからの報告書及び決算書は、これらの状況に鑑み適切に監査し、ロータリー財団本部（TRF）の地区補助金「授与と受諾の条件」に沿い、報告受理作業を進めてまいります。

会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

次年度は、財団委員会内の別の小委員会へ出向することが決まりました。しかし、地区補助金事業にも、ある程度は関わらせていただくことになると思います。

今後も地区補助金が、皆様のクラブ事業にとりまして有効活用できますことを祈念いたします。



米山記念奨学委員会委員長 高谷 信一（長崎出島 RC）

米山記念奨学委員会の委員長を退任するにあたり、まずは寄付を頂いています地区内のロータリアンの皆さまに感謝申し上げます。

米山記念奨学生に支給させていただく奨学金並びに各種奨学事業にかかわる活動費は、ほぼすべて皆様の寄付により成り立っております。今後とも何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、私自身は地区委員として大家前委員長、松田前委員長のもと、米山奨学事業にかかわって数年間、その活動をととても楽しく過ごさせていただきました。その後、今年度から委員長を引き継ぎましたが、その責任の重さと大変さを身に染みて痛感いたしました。

個々の地区行事については経験があったため、何とかできるだろうと走り出しましたが、年間を通した全体の流れをうまく把握できず、何かと準備不足な点が多々ありましたこと、地区委員を始めとする奨学事業にかかわる方々に迷惑をかけてしまいました。

幸いなことに次年度も委員長を拝命する予定です。米山記念奨学会がいう「どんな奨学生を採用したかで奨学事業の価値が決まり、さらに意味のあることは、どんな奨学生に育てたか、育てくれたか」の言葉のもと、今年度の経験と反省点を糧として次年度以降の活動をより良く、また関わる全ての皆さまが活動を楽しめるよう努力してまいります。

最後に米山カウンセラー、奨学生を受け入れて頂いたお世話クラブ、地区役員並びに委員会のメンバー、米山記念奨学生、米山学友、指定校の方々、また地区内全てのロータリアンの皆さまに重ねて感謝申し上げ、私の退任の挨拶とさせていただきます。

会長エレクト・次期幹事研修セミナー報告

PETS 実行委員会委員長 野崎 伸也（唐津西 RC）

国際ロータリー第 2740 地区では、2025-26 年度に向けた準備の一環として、4 月 20 日に唐津シーサイドホテルにて、会長エレクト・次期幹事研修セミナー（PETS）を開催しました。本セミナーには、地区内の全クラブから約 110 名の会長エレクト・次期幹事が参加し、ガバナーやパストガバナー、ガバナー補佐等を含めた総勢約 150 名が一堂に会しました。

今回は、国際ロータリー日本事務局より縄田怜氏が出席され、日本事務局の組織や MY ROTARY についての説明。石坂和彦ガバナーからは次年度 RI 会長ムービーの紹介があり「よいことのために手を取りあおう」という 2025-26 年度の RI 方針。「この出会い・ご縁に感謝してロータリーの今を楽しみましょう。」との故辻幸徳パストガバナーの思いを大事にしながら「未来へ紡ごうロータリーの価値“一円融合”」という地区方針の説明がありました。

塚崎寛パストガバナーからは会長エレクト・幹事の果たすべき役割、効果的なクラブ運営の実践について詳しく解説がありました。ロータリーの目的、クラブの中長期計画の策定、クラブの強みと弱み、親睦活動の多様化、会員増強の目標と基盤の強化に向けた具体的な取り組みや、ラーニングファシリテーターの育成や子ど

も食堂とのかかわりを深めることの提案がありました。パネルディスカッションや懇親会でのガバナー補佐のスピーチもあり、参加者からは「非常に実践的で分かりやすかった」「クラブ運営の指針が明確になった」との声が多く聞かれました。

本セミナーは、次年度のクラブリーダーが情報交換し、ネットワークを築く貴重な機会となり、和やかな雰囲気の中にも、真剣な学びと意欲があふれる一日となりました。

参加された皆様が、学びを各クラブに持ち帰り、活気あるクラブ運営と奉仕活動につなげていかれることを期待しています。



第5グループ IMの報告

ホストクラブ幹事 永安 久幸（北松浦 RC）

去る令和7年4月19日（土）、佐世保市吉井地区コミュニティセンターにて、R I 第2740地区第5グループのIM（インターシティ・ミーティング）を開催いたしました。

今回のIMについては、クラブ内でもさまざまな意見があり、入会3年前後の若手会員を対象とした研修会にするのか、各クラブ間の懇親を主目的とするのか、当初は方向性が定まらない時期もありました。そうした中で、元・清峰高校野球部監督（現・山梨学院高校野球部監督）吉田洸二氏に講演を依頼できるという知らせが入り、IMの方向性が一気に明確となりました。

後から決定した表題は「ロータリーにおける青少年奉仕の行先は？」。内容としては、吉田監督がどのように少年たちと向き合い、指導し、そして高校野球優勝に導いたのかという視点から、青少年奉仕にフォーカスを当て、ロータリーとのかかわり方や抱える課題、将来性について検討するものでした。講演後には、吉田監督をアドバイザーとしてお迎えし、パネルディスカッション形式での意見交換も行いました。

全体としてはコンパクトながら充実した内容のIMになったと感じています。

特に、吉田監督の巧みな話術は、同席した清峰高校野球部の生徒たちだけでなく、私たち大人も魅了し、その一言一言に深く感銘を受けました。監督の熱い想いに触れ、心を揺さぶられた参加者も多かったのではないのでしょうか。

中でも印象的だったのは、「今起きていることは、

すべて自分がオーダーしたこと」という言葉です。すなわち、現在の出来事は過去の自分が選び、行動してきた結果であり、現状を誰かのせいにするのではなく、自らの責任として受け止めていく姿勢の大切さを教えていただきました。この言葉には、多くの参加者が大きくうなずいていたのが印象的でした。

その後、会場をサンパーク吉井に移し、懇親会を開催いたしました。

我が北松浦ロータリークラブの“マドンナ”古賀めぐみ会員と、有馬明彦会員による絶妙な司会進行により、会は円滑に進行しました。途中からは、女性ボーカルデュオ「ミカエル」による素晴らしい楽曲の披露もあり、会場の雰囲気は最高潮に達しました。

さらに、石坂ガバナー・西田ガバナー補佐および各クラブ会長を壇上にお招きし、全員で「明日があるさ」を合唱した場面は、参加者の心に深く刻まれる素晴らしい締めくくりとなりました。

こうして閉会となりましたが、今回のIMを通じて、北松浦ロータリークラブの団結力や底力を会員自身が再認識し、それを外部に発信できたことは何よりの成果であり、大きな自信となったことと思います。

最後に、IM開催にあたりご協力いただきました石坂ガバナーをはじめ、第5グループの皆様へ心より感謝申し上げます。また、お忙しい中ご参加いただきました皆様にも、深く感謝と御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。



第7・8グループ IMの報告

ホストクラブ会長 長津 弘（大村北 RC）

2740地区2024-2025年度第7・8グループ合同インターシティミーティングを石坂ガバナー、森地区幹事、園田大村市長、栗林、宮崎、千葉各パストガバナーを来賓にお招きしまして令和7年3月22日(土)に大村中央公民館(シーハットおおむら)にて開催いたしました。今年度の地区内の集まりに際しては雨や風にたたられる事も少なくありませんでしたが、当日は今年一番とも言っても良いほどの雲一つない素晴らしい天気、まずは神様に大感謝でした。来賓紹介、参加クラブ紹介、ガバナー、市長のご挨拶の後、第1部は30年前の初の自衛隊海外派遣部隊の指揮官で「ひげの隊長」して広く国民に知られ、現在3期目の参議院議員を務めておられる佐藤正久様に「我が国を取り巻く安全保障環境」というテーマで1時間講演をしていただきました。まずその気取らない話しぶりに会場が引き込まれ、今の我が国が大変厳しい国際環境の中にいることを知りました。その後の新聞やテレビの国際情勢のニュースの見方が変わりました。時勢にあった講演を企画出来て大変良かったと思います。佐藤正久様には2部の企画も会場で聞いていただき、懇親会にも最後までご参加いただきました。懇親会では佐藤様の席に来てお話をしたり、記念写真を撮る会員が途切れる事が無いほどの人気者でした。佐藤様、本当にありがとうございました。私の携帯の中にはゲストのタナカハルナ様の歌に合わせて頭の上で両手を振っている佐藤様の後ろ姿の写真が入っています。第2部は「ロータリーの価値ってなあに？」というテーマのファシリテーションでした。ファシリテーターを麻生第7グループガバナー補佐が

務め、パネリストとして本多第8グループガバナー補佐の他、会員としての年数の異なる4人の方に登壇していただきました。「ロータリアンとして今楽しいですか」「あなたのクラブは新しい仲間に優しいですか？」とよその集まりではなかなか聞かないような、かなり突っ込んだ質問にもみなさんしっかり答えてくださいました。身内のことで恐縮ですが一つ間違うと角の立ちそうな内容をユーモアも交えて上手に取りまとめた麻生ガバナー補佐さすがでした。本多ガバナー補佐をはじめ登壇者の皆様ありがとうございました。

先ほども述べましたが懇親会の最後まで佐藤様や園田市長にもご参加いただきました。今回のIMの参加総数は約200名と、多くの方が懇親会まで残ってくださいました。IM開催にあたり幹事をはじめクラブのメンバーと第7・8グループ内各クラブへご参加のお願いに伺いました。

その事だけでもあまりできない体験で、楽しかったのですが、大勢の方に大村に来ていただき大変嬉しかったです。全会員を代表してお礼を申し上げます。



国際青少年交換留学生報告

国際青少年交換委員会委員長 徳永 隆信（有田 RC）

現在アメリカに派遣中の交換留学生・上田芽衣さん（長崎中央 RC ホスト）は、通学先で青少年交換プログラムの魅力と自身の体験をスピーチしました。スポンサー未定の中でも粘り強く準備を重ねた彼女はロータリーへの感謝の思いでいっぱいです。

このスピーチは、9月14日の説明会でも紹介いたします。

下記 URL・QR コードから原文をお読みいただけます。

<https://00m.in/MScNR>



国際青少年交換留学生 上田 芽衣

こんにちは、私は今年ロータリー青少年交換プログラムから留学している上田芽依です。私は日本出身です。リッチフィールドにある lake view high schoolに通っています。

今日はインターアクト生の皆さんがこの素晴らしいロータリー青少年交換プログラムを知ってもらい、少しでも興味を持ってくれると幸いです。

今からロータリー青少年交換プログラムの概要と私の留学エピソードとプログラム最大のメリットの三つのテーマに分けて話します。

世界100各国以上で行われているロータリー青少年交換プログラムとはロータリークラブによる支援の下、15～19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、地球市民としての自覚を養うことのできるプログラムです。1929年フランスのニースロータリークラブで始まり、戦後の1950年代に「二度と戦争を引き起こしてはいけない」という国際協力と相互理解の重要性から世界中で本格的に広まりました。このようにロータリー青少年交換プログラムは、国際交流を通じて国際理解、親善、世界平和の推進に寄与することを目的としています。

青少年交換プログラムならではの魅力の一つが、豊富なイベントです。私の滞在している地区では、他の交換留学生と交流する機会を多く設けてくださいました。

9月には北東マサチューセッツ州でキャンプがあり、世界各国から来た留学生たちと文化交流を

楽しみました。2月にはバーモント州でスキー旅行が開催され、美しい雪景色の中で素晴らしい思い出を作ることができました。5月にはニューヨーク旅行が予定されており、6月の終盤には他の留学生たちとともに西海岸を巡る旅に出ます。

このように、交換留学を通じて貴重な体験ができるイベントが数多く用意されています。

次に私自身のエピソードについて話します。

私が留学したきっかけは、好奇心から若いうちに世界へ飛び出し、新しい刺激を得ることで、将来の選択肢を広げたいと思ったからです。

海外で飛び立つことで新しいアイデアや視点を得ることができ、将来においても「こんな選択肢もあったんだ」と気づくことができます。異なる文化や考え方に触れることで、視野が広がり、自分の可能性や未来の選択肢をより多角的に捉えられるようになって感じています。

留学の魅力は世界中に一生の友達を作ることができることです。

ただの「友達」ではなく、異なる言語や文化を超えて深くつながれる特別な存在です。最初の3カ月は知り合いもおらず、友達作りに苦労しましたが、学校生活に慣れるにつれて自然と分かち合える仲間ができました。特にスポーツを通じて、言葉を超えた絆を感じることができました。

また、同じ Youth Exchange Students との出会いは、私にとって大きな意味を持ちます。彼ら

は私と同じように異文化の中で挑戦し、成長しようとする仲間です。そのため留学に対するお互いの気持ちを深く理解し合い、支え合える存在となりました。

もちろん、留学するにおいて、誰しも乗り越えなくてはならないかべがあります。それは言葉の壁です。現地の言葉を完全に理解していない限り、会話のテンポが早かったり、スラング混じりの会話だったりすると相手とのコミュニケーションを取ることや、授業について行くことが難しくなります。実際私は相手に何か伝えたくてもぱっと思いつかないため、翻訳機を使う毎日で疲れ果ててしまいました。また、先生がジョークを言った際に何が面白いのかわからず友達に「今のどういう意味？」と尋ねても「説明するのが難しい」と返答されるばかりでした。こういう時最も大事なものは壁を乗り越える努力をすることです。私は積極的にわからないことは先生や友達に質問しました。最初はうまくいかなくても「失敗しても大丈夫」と思える強いメンタルが壁を乗り越える手助けをしてくれました。

留学で得ることができるスキルは主に自己管理能力です。

皆さん、想像してみてください。家族の元を離れてたった一人で外国に足を踏み入れることを。これまで家族に頼っていたことが全て自分の責任となります。その上、文化も常識も何もかも違う環境の中で不安を感じるのも無理もないでしょう。しかし、自分しか信じることのできない中、日常生活の管理から重要な決定を下すことまで自分で成し遂げることで自然と強い独立心が養われるのです。

最後にロータリー青少年交換プログラムの最大のメリットについてです。

結論から言うと、他の留学機関と比べて、留学生へのサポートが手厚いと言うことです。

私は色々な留学機関を探してました。どこの留学機関も競争率や費用が高かったり、緊急時の対応が甘いという評価を受けていたり条件が多かったです。そんな中、ロータリー青少年交換プログラムだけは違いました。このプログラムは留

学の1年前から継続的なサポートを受けながら、海外で必要なスキルを身につける機会が与えられます。

また海外からのインバウンド生との交流会があったりと留学前から国際的な環境に慣れ、文化の違いを学ぶことができます。そのため、渡航後もスムーズに新しい環境に適応しやすくなった気がします。

また通常の留学機関を通すと約20,000～30,000ドル、私費留学となると約70,000ドル以上の費用がかかります。それに対してロータリー青少年交換プログラムは5000ドルから8000ドルとかなり安い費用で行くことが可能です。安さから安心できない人もいますが、なぜ安いのか想像してみてください。ロータリーは全てボランティアでやっているからです。そのため、トラブルが起こった際も「お金を払っているから対応してもらえる」というビジネス的な関係ではなく、「助けたい」という純粋な想いで動いてくれる人が多いのが特徴です。実際私もトラブルが何度か起きましたか迅速に対応してくださいました。ロータリーの皆さんには本当に感謝しています。

このようにロータリー青少年交換プログラムはロータリアンの皆さんの奉仕の心から支えられている素晴らしい機関です。彼らの支援は単なるプログラムの運営にとどまらず、私たち留学生一人一人の成長を真剣に考え、温かく見守ってくれる存在です。ロータリークラブが提供するサポートとネットワークは、単に留学を成功させるためだけでなく、将来に向けた貴重な人間関係や経験を積むための基盤となります。地球市民としての自覚を養い、異文化を学び、世界中に友人を作るチャンスを与えてくれるこのプログラムは、まさに私の人生において大きな転機となりました。

このスピーチを通じて、インターアクト生の皆さんがもしこのプログラムに興味を持っていただけなら、ぜひ積極的に挑戦してみてください。このプログラムは、皆さんの未来をより豊かで素晴らしいものにするのは間違いありません。

ご清聴ありがとうございました。

ローターアクト地区年次大会報告

ローターアクト地区共同代表 原口 礼奈

2025年5月3日（土）当日は、鎮西学院大学の皆様による素晴らしい演奏により、会場全体が一体となって音楽を楽しむことができ、ロータリアンの皆様との交流もより一層深まる、貴重なひとときとなりました。皆様のお力添えをもちまして、無事に大会を終えることができましたこと、心より御礼申し上げます。

今後の活動におきましても、引き続き、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



フォレストアドベンチャー・おおむら長崎

全国で45番目、長崎県内では初の施設として、「フォレストアドベンチャー・おおむら長崎」が2025年4月26日（土）に、大村市東野岳町の野岳湖公園に隣接する森にオープンしました。

野岳湖公園は、美しい湖畔の自然に囲まれたアウトドアの拠点で、釣り・ハイキング・バーベキュー・キャンプなど、多彩なアクティビティを楽しめる場所です。

また、長崎空港から車で約20分、新大村駅からも15分とアクセス良好で、県内外から注目を集めています。

■ 森で遊び、森で学び、森を活かす

フォレストアドベンチャーは自然の立木に設置された本格的な樹上コースを自らの力で攻略するアクティビティが魅力です。子どもは「挑戦」を通じて成長し、大人は童心にかえる——そんな非日常体験を楽しめる施設です。

また、自然学習やチームビルディング研修にも対応しており、「森で遊び、森で学び、森を活かす場」として幅広く活用できる施設となっています。

■ アクセス抜群の大自然でリフレッシュ

長崎空港から車で約20分、新大村駅からも約15分とアクセスしやすく、周辺には野岳湖や裏見の滝、しゃくなげ園など自然スポットが豊富。

隣接の野岳湖公園にはバーベキュー場やキャンプ場もあり、家族や仲間と一緒に自然を満喫する休日が過ごせます。

フォレストアドベンチャー・おおむら長崎は2種類のコースで構成されています。

- アドベンチャーコース（小学4年生以上 or 身長140cm～）
4サイト・全32アクティビティ。最大15mの高さから滑り降りる100m級のジップスライドはスリル満点！
- キャンピコーコース（身長110cm～）
同じく4サイト・32アクティビティ。高さが控えめで、初心者やファミリーにぴったりです。

自然共生型アウトドアパーク
FOREST ADVENTURE

森
で
遊
ぶ
つ！

大村の森で大冒険！

予約優先制
ご予約
お問い合わせは
こちら！

tel 080-1403-0552
mail omuranagasaki@forest-adventure.jp
フォレストアドベンチャー・おおむら長崎

〒856-0002 長崎県大村市東野岳町1596-1

2025 年 3 月 会 員 数 ・ 出 席 報 告

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数				当該月			累計
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会	増減	
第1グループ	佐賀	3	88.7	78	9	73	7	0	4	-4	-5
	小城	4	69.4	28	4	31	4	0	0	0	3
	牛津	3	72.4	29	0	28	0	0	1	-1	-
	多久	3	83.8	36	6	34	6	0	0	0	-2
	佐賀大和	4	61.5	24	6	24	6	0	0	0	0
	小計		75.1	195	25	190	23	0	5	-5	-5
第2グループ	佐賀西	3	79.8	36	4	39	4	1	1	0	3
	佐賀北	4	64.0	44	3	44	3	0	1	-1	0
	佐賀南	4	58.1	46	6	47	6	0	1	-1	1
	神埼	4	74.2	39	4	39	4	0	0	0	0
	佐賀空港	3	51.0	16	0	17	0	1	0	1	1
	小計		65.4	181	17	186	17	2	3	-1	5
第3グループ	有田	3	75.7	31	2	26	2	0	0	0	-5
	武雄	4	83.9	44	3	40	2	0	2	-2	-4
	鹿島	4	86.4	28	5	27	5	0	1	-1	-1
	嬉野	4	83.0	26	2	25	2	0	1	-1	-1
	大町	3	64.3	15	0	14	0	0	1	-1	-1
	太良	3	96.3	9	0	9	0	0	0	0	0
	小計		81.6	153	12	141	11	0	5	-5	-12
第4グループ	唐津	4	86.9	54	0	55	0	0	0	0	1
	伊万里	4	88.4	27	0	26	1	0	0	0	-1
	唐津東	3	85.1	49	2	50	2	0	1	-1	1
	唐津西	4	91.2	25	0	26	0	0	0	0	1
	伊万里西	2	81.1	34	5	34	5	0	0	0	0
	唐津中央	4	85.8	33	4	33	4	0	1	-1	0
	小計		86.4	222	11	224	12	0	2	-2	2
第5グループ	佐世保	4	77.3	73	0	73	1	1	5	-4	0
	平戸	3	70.2	23	4	22	4	0	0	0	-1
	北松浦	5	82.0	23	2	26	2	0	0	0	3
	佐世保西	4	70.6	21	4	21	5	0	2	-2	0
	松浦	4	84.6	23	0	26	0	0	0	0	3
	小計		77.0	163	10	168	12	1	7	-6	5

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数				当該月			累計
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会	増減	
第6グループ	佐 世 保 南	4	100.0	58	2	60	3	0	1	-1	2
	佐 世 保 東	3	66.2	27	1	26	1	0	0	0	-1
	佐世保北 (衛星クラブ14名)	5	90.8	52	5	54	6	0	0	0	2
	佐世保中央	4	81.3	54	3	53	3	0	1	-1	-1
	佐世保東南	3	70.0	27	0	28	1	0	0	0	1
	HTB佐世保	3	81.1	23	3	23	4	0	0	0	0
	小 計		81.6	241	14	244	18	0	2	-2	3
第7グループ	大 村	4	77.4	39	4	42	4	0	0	0	3
	島 原	4	73.1	29	2	25	2	0	1	-1	-4
	大 村 北	4	86.9	23	1	27	1	0	0	0	4
	島 原 南	3	58.8	18	3	17	2	0	0	0	-1
	大 村 東	3	78.4	36	6	36	6	0	1	-1	0
	小 計		74.9	145	16	147	15	0	2	-2	2
第8グループ	諫 早	3	64.9	72	0	73	0	1	1	0	1
	諫 早 北	3	75.9	76	3	73	3	0	1	-1	-3
	諫 早 西	3	91.9	49	3	47	3	0	2	-2	-2
	諫早多良見	4	89.3	27	2	25	2	0	2	-2	-2
	雲仙 諫早南	2	83.3	13	4	12	3	0	0	0	-1
	小 計		81.1	237	12	230	11	1	6	-5	-7
第9グループ	長 崎	3	77.6	61	2	64	2	0	0	0	3
	福 江	3	55.8	28	0	29	0	0	1	-1	1
	長 崎 北 東	3	77.4	36	2	35	2	1	3	-2	-1
	福 江 中 央	3	87.9	18	1	18	1	0	0	0	0
	長 崎 西	3	79.2	35	1	35	1	0	0	0	0
	長 崎 琴 海	3	72.2	7	0	7	0	0	0	0	0
	小 計		75.0	185	6	188	6	1	4	-3	3
第10グループ	長 崎 北	4	87.2	71	1	66	1	0	5	-5	-5
	長 崎 南	3	69.9	69	0	66	1	0	4	-4	-3
	長 崎 東	4	72.1	42	2	42	2	1	0	1	0
	長崎みなと (衛星クラブ10名)	4	81.5	24	1	33	7	0	0	0	9
	長 崎 中 央	4	88.3	43	2	42	1	0	2	-2	-1
	長 崎 出 島	3	76.0	73	10	71	10	0	1	-1	-2
	小 計		79.2	322	16	320	22	1	12	-11	-2
55クラブ合計			78.0	2,044	139	2,038	147	6	48	-42	-6

* 上記の表の新入・退会は当月中の数字で、累計は2024年7月1日から2025年3月末までの増減です。

新会員紹介 私たちの新しい仲間になりました方々を紹介します。

※氏名の下部は勤務先、役職

※今月号に掲載が間に合わなかった新会員の方のご紹介は、次号に掲載させていただきます。



佐賀西 RC

麻生 隆 君
(株)ドコモ CS 九州佐賀支店
支店長



佐賀空港 RC

承山 海里 君
(株)現在設備計画
代表取締役



佐世保 RC

泉谷 聡 君
(株)スプリングヴァレー
代表取締役



諫早 RC

野崎 丈司 君
vivienne
代表



長崎北東 RC

和田 栄代美 君
(株)星取デザインルーム
代表取締役



長崎東 RC

井手 一 君
(株)ライフプラザパートナーズ
シニアフィナンシャルアドバイザー

物故者

謹んでご冥福をお祈り
申し上げます。



諫早西 RC

山口 博幸 君
享年 51 才



長崎中央 RC

西國 麻喜 君
享年 49 才

寄付者紹介 御厚意に深く感謝申し上げます。認証者の方を記載いたします。

ロータリー財団		
種 類	氏 名	クラブ名
メジャードナー	宮崎 清彰	諫早北 RC
マルチプル・ポール・ハリスフェロー	織田 喜六	鹿島 RC
	山崎 祥弘	諫早西 RC
	山口 大司	諫早西 RC
	佐藤 幸雄	諫早西 RC
ポール・ハリスフェロー	池田 順秀	武雄 RC
	岡村 健一	武雄 RC
	峰松 明彦	鹿島 RC
	稲次 賢一	佐世保中央 RC
	田端 真人	佐世保中央 RC
ベネファクター	山口 大司	諫早西 RC

米山記念奨学会		
種 類	氏 名	クラブ名
米山功労者 マルチプル	小林 哲	唐津 RC
	村上 伸	唐津東 RC
	八重野一洋	佐世保中央 RC
米山功労者	青崎 秀雄	松浦 RC
	井手 陽一	佐世保中央 RC
	田村健一郎	長崎出島 RC
米山功労クラブ		松浦 RC
		佐世保中央 RC

ポリオ・ワンコイン BOX 報告

今月分 BOX 金額 438,498 円

累計金額 3,056,935 円

Re:discover the Value Omura

大村の価値再発見伝

深澤儀太夫勝清家『三代』と 野岳湖

○初代深澤儀太夫勝清について

天正12年(1594)武雄生まれ。橘姓渋江氏の出身で当初浅井氏を名のり、波佐見村中尾に住み中尾治左衛門と称します。深澤姓は大村公よりの賜姓です。

33歳にて槍術の修行に諸国を歴訪中に紀州の太地浦(現在の和歌山県東牟婁郡太地町)にて鯨組頭・和田頼照から捕鯨業(突捕法)を学び、鯨組(深澤組)を組織しました。捕鯨業は鯨の生態を利用して行われていました。回遊ルートにあたる五島灘は、大村藩や平戸藩、五島藩等の一大漁場となっていました。

寛永2年(1625年)、深澤儀太夫勝清は捕鯨業を始めます。順調に漁場を拡大していき、深澤組は五島や対馬などに基地を構え、筑前大島や長門の見島の漁場まで進出しました。年間100頭を捕獲し、全国屈指の財を成すようになります。

大村藩の『郷村記』によれば深澤儀太夫が藩領(平島)で捕鯨を開始したのは、正保年間(1644~48)の事で、寛文元年(1661年)には、漁獲高鯨25本(一頭で七浦潤うと言われた時代)油樽7000余を得たといえます。勝清は船底に塗料を塗り舟の速度を早めて、また鉾も刃先が左右に開くものに改良して、鯨の身に強く食い込むようにしていました。慶安3年(1650年)には、金2,800両の大金にて天台宗の円融寺を建立した他、浄土宗長安寺の本堂、石堀、鐘楼などを寄進しました。また、池田郷真言宗宝円寺の堂宇の改修もしています。

○二代目深澤儀太夫勝幸について

初代深澤儀太夫勝清は子が無く、弟が二代目となります。儀太夫勝幸は延宝6年(1678)に五島魚目で網掛突捕法を開発し、貞享元年(1684)には壱岐勝本にて本格的にこの方法を開始しました。

この方法によって、早く確実に鯨を捕ることができたため、さらに莫大な利益をあげることができました。初代に倣い、延宝7年(1679)郡村本倉に堤を築いて新田を開発したのをはじめ、藩内各地にため池を造成しました。延宝8年(1680)、江戸外桜田備前町の旧水野家の敷地1,783坪を購入して藩に献上しています。円融寺の修復等、諸々の寄付等も実施しました。藩が借り受けた借銀は、現在証文が残っているだけでも膨大な額があり、大村藩の元禄時代(1687~95年)の財政危機に対し、これを支えたのが捕鯨業者の深澤家でした。

藩の財政難の際、深澤の貢献に対して、藩主四代大村純長から『深澤』姓や金升紋の下賜、さらに帯刀の許可、そして勝幸の長男勝直を士分とするといった褒美が与えられました。

○野岳の堤(長崎県立公園)

大村藩は、新田開発とともに藩士の次男以下の別家を進めるために、治水困難な野岳の地に人工の堤を計画しました。大村市松原村野岳大堤です。初代儀太夫勝清は莫大な財力で以てこれに資金提供を行い、寛文元年(1661年)8月に野岳に大堤築造を開始。部落の人々も加わり、鉾、もっこを主体に、土に塩を混ぜ固め、石を割り、組合せてといった人海作戦で行われました。

大堤は1年7ヶ月を要し、寛文3年(1663年)3月3日に完成。4,000石の新田開発をなします。郡岳の沢水や流域水を集め、ひょうたん型の周囲4000m、貯水量40万トンの堤です。費用は4,200両(昭和52年当時で5億円)。深澤家の実績を語る上で不可欠なのは、藩の公共事業等への献金です。



参考文献・大村市史第三巻近世編・大村史談25、40、43、45、47号・大村史記・大村史話・西海の恵み大村市歴史資料館

文責 森本英敏

編集後記

この1年間、石坂ガバナーのもと、「ロータリーの価値の再発見」を掲げて、素晴らしい充実した各事業が展開され、そのいきいきした活動の様子をお伝えできたのではないかと思います。表紙についてご協力いただきました大村市関係者の皆様、毎回ご覧いただいたロータリアンの皆様、編集委員会の皆様、ガバナー事務所の皆様、すべての皆様のご協力で、総集編を残し、無事に1年間お届けできましたことに心より感謝申し上げます。

国際ロータリー第2740地区
ガバナー事務所

〒856-0832
長崎県大村市本町458番地2 中心市街地複合ビル1階
TEL0957-51-6439 FAX0957-51-7054
E-mail:ri2740ishizaka@octp-net.ne.jp



WEBサイト